

### 3-6 京都大学総合博物館収蔵外邦図の目録作成作業について

山村亜希（愛知県立大学）

#### 京大総合博物館収蔵外邦図の来歴と現状

京都大学総合博物館には、図幅数 11712・総枚数 13495 枚（うち、現物 11931 枚、コピー 1564 枚）の外邦図（海図を含む）が収蔵されている。これらの外邦図は、京都大学文学部地理学教室が、教室創立の明治 40（1907）年以来収集してきた、貴重な地図資料の一つである。外邦図は、昭和 62 年（1987）に建設された京都大学文学部博物館の地理作業室内に収蔵され、その後同館が総合博物館に組織替えされたので、収蔵場所には変更はないが、館の名称のみ変わり、現在は総合博物館地理作業室に保管されている。

これらの外邦図には、戦前に収蔵されたものも含まれている。収集の経緯は明らかではないものの、陸軍省・海軍省より寄贈を受けたものがあることが分かっている。しかし、その大半は戦後に収集されたものである。1960 年に、お茶の水女子大学の浅井辰郎教授の取り計らいによって、戦後に資源科学研究所に所蔵されていた外邦図の一部（7024 枚）が、文学部地理学教室に収蔵されることとなった。さらに 1997 年夏には、東北大学と、相互に不足する図幅の現物ないしコピーの交換や寄贈が行われた結果、約 5000 枚が加わった。

このような収集の経緯の中で、地理学教室によって何度か外邦図の整理がなされて

きた。整理によって、外邦図は地域ごとに分類され、マップケースに比較的良好な状態で保管されてきた。しかし、その整理作業は、基本的に地域研究の資料としての利用を目的としており、検索を簡易にするために地域別インデックスマップは作成されたが、書誌的情報を含むリストは作成されてこなかった。地域別のインデックスマップも、収蔵分の外邦図をもとに作成されたものであるため、インデックスにない地域は、そもそも作成されなかったのか、その地域の外邦図が京大に収蔵されていないだけなのか、といった点が分からないという限界を持っていた。それは、他大学・他機関に所蔵される外邦図との相違や、本来作成された外邦図全体の中での位置づけが不明であったということでもある。このように、京大総合博物館での外邦図の利用において、外邦図の全貌を把握する必要が認識されていた。

このような現状の中で、本科研による外邦図研究がスタートし、複数の機関に離散した外邦図の書誌情報を統合することを通じて、外邦図の全貌を明らかにする必要性が強く認識された。そこで、2003 年 3 月に発刊された『東北大学所蔵外邦図目録』に続き、2003 年度に京大総合博物館収蔵の外邦図についても目録を作成することとなった。

#### 外邦図目録作成作業の概要

目録作成作業は、2003年3月に京大文学部地理学教室を退官された石原潤先生（現奈良大学）のご指導のもとに、文学部地理学教室の大学院生2人、学部生22人によって、2003年7月22日から8月20日のうちの14日間に行われた。筆者（2003年9月まで京大総合博物館に助手として勤務）及び地理学教室博士課程1年の中辻亨氏が、具体的な内容を現場で院生・学生に指示して作業を進めていった。

対象とする外邦図は、現日本国外の地図（ほとんどが地形図）としたが、旧海軍省水路部作成の海図（956枚）も含めた。従来、まとまった数の海図が存在していることは知られていたが、これらは外邦図以上に把握されておらず、東北大目録に海図が含まれていることから、比較の観点からも海図の書誌情報は意味があると判断し、採録することとした。

作業は、基本的に2003年3月に発刊の『東北大大学所蔵外邦図目録』に準拠し、同目録の記載内容を確認し、修正・追記する形で行った。具体的には、二人一組でチームを組み、一人が外邦図の書誌情報を読み上げ、もう一人が東北大目録のコピーの上に確認・修正した内容を記入する方法で行うことで、一人での判読を避け、できるだけ間違いの少ないように努めた。また、外邦図は地域ごとに書誌情報の様式に大きな差があり、情報の採録に若干の慣れが必要なため、地域ごとに複数のチームから成るグループを割り当てた。外邦図の確認・修正作業と並行して、地域ごとにExcelデータにそれらを転記していった。データに各地域の書誌情報を修正・入力した後、全ての地

域のデータを接合した。そのデータを、2003年9月に、学部生一人と筆者で体裁の統一や明らかな誤記の修正を行った。最後に、2003年12月に、東北大学目録の作成に大きな貢献をされた渡辺信孝氏（仙台都市総合研究機構）に、京大目録のデータを確認し、地域独自の経度基準などを修正して頂いた。

### 目録作成作業における問題点

作業の中で、当初は想定していなかった問題点・疑問点がいくつか浮上し、対応に苦慮した。最も大きな問題点は、書誌情報をどこまで採録するかということに関して、事前に明確な基準を決めていなかったことである。

地域によっては、作成の経緯、原図の情報、図法、標高の基準、作成部隊名などの書誌情報を詳細に書き入れている外邦図がある。例えば、オーストラリア5万分の1図 MUNDARING (ZONE1-399) は、図の枠外に「1942年濠州軍参謀部調製63360分の1五色刷図を5万分の1に伸写し五色に複製」といった記載がみられることから、日本軍が用いたオーストラリア軍製の原図の書誌情報が分かる。アリューション50万分の1図に至っては、図幅名の他に「東四レ502」といった記号が付され、さらに「1941年製米板版50万分の1航空図により編纂し、4万分の1アリューション群島地誌其二（ダッチハーバー・ウラナスカ湾）海図第3503号を参照す」といった、さらに詳しい原図情報が記載される。パラオの2万5千分の1図には、「標高はコロール湾の中等潮位より起算し米突を以て示す」といった標高基

準の情報がみられる。また、多くの外邦図には、「軍事秘密」、「部外秘」、「秘扱」、「極扱」などの印が印刷され、「取扱ニ注意シ用済後焼却」といった詳しい取り扱いも定められているものもある。このような情報は、外邦図の作成の経緯や、他の帝国諸国の地図作成事業との関連、作成の技術、外邦図の利用のされ方などを考える上で、貴重な資料となるだろう。しかし、これらの情報を網羅的に採録するには、膨大な労力と時間が必要となる。実際、このように書誌情報の多い地域(とくに南洋諸島・オセアニア)の作業に入ってから、極端に作業のスピードが落ちた。

どこまでの書誌情報が必要かという判断は、目録の目的や利用方法に関わってくる。地域研究の資料としての外邦図の検索、あるいは他機関・他大学との比較を、目録の主要な目的とするのであれば、これらの詳細な書誌情報を目録に採録する必要はない。また、目録をもとに外邦図を検索し、現物ないしコピーを閲覧して、そこから各研究者が自分の研究に必要なより詳しい書誌情報を入手してもらうという利用方法を想定するのであれば、最低限の書誌情報さえ掲載された目録であれば、十分役立つであろう。今回の作業においては、書誌情報を網羅するのは、現段階の作業状況を考えると現実的でない判断されたため、現物にアクセスするための所在目録として最低限の書誌情報を記載するに留めた。しかし、実際には作業途中でこの判断を行ったので、作業の進行程度によって書誌情報の精度にばらつきが生じてしまった。そこで、詳細な情報は「備考」欄に記載し、「備考」欄は統一されていないことを凡例に示すことと

した。

また、責任表示の判読の仕方について、作業の途中で何度か疑問点が出された。多くの外邦図には、図の左下に、測量・製版・印刷・発行の年次と機関名の記載が並んでいる。複数の機関名が併記されている場合(例えば、陸地測量部と参謀本部)、両者ともを製版・印刷機関と読むのか、それとも併記されている機関はいずれかが製版機関で、もう片方が印刷機関とみなすのか判読が難しい。作業を進める中で、同一の機関名(例えば参謀本部)が二度記載されている地図があり、記載されている複数の機関が製版・印刷機関だとする解釈が難しいことに気づいた。その時点で、後者の判読が妥当なのではないかとの推定に至ったが、このような問題も作業当初には想定できなかった。

### 京都大学総合博物館収蔵外邦図の特徴

京大総合博物館収蔵外邦図と東北大学所蔵外邦図とを比較すると、いずれかのみにしか収蔵されていない外邦図がある。京大にのみ収蔵の外邦図は、1433 図幅・総数1461 枚(うち現物1430 枚・コピー31 枚)あり、逆に東北大にのみ所蔵の外邦図は、1538 図幅ある。京大にのみ収蔵されている外邦図の多くは、朝鮮半島の地形図や明治期の海図であり、「陸軍省寄贈」や「海軍省寄贈」といった押印も見られる。ここから、戦前にある程度まとまった形で、陸軍省や海軍省から京都帝国大学地理学教室に直接寄贈を受けたものが含まれていることが分かる。これは、戦後の参謀本部ないし資源科学研

研究所からの外邦図の流出（久武,2003）とは異なる経路で、戦前にも外邦図が外部に流れてきたことを示している。

## おわりに

今回の作業で作成した京大外邦図目録は、近日中に発刊する予定である。今後の学術研究・教育に活用して頂きたい。また、書いたように、この目録は書誌情報を網羅していないという点で、「未完」のデータベースである。今後の研究の中で、書誌情報の充実を図っていくとともに、間違いなどが見つければ修正を加え、目録を発展させたい。また、今後、外邦図の目録を作成される場合には、ここで述べた点を参考に、事前に十分な「作戦」を立てられることをお勧めする。

## 文献

- 東北大学大学院理学研究科地理学教室  
（2003）『東北大学所蔵外邦図目録』,東北大学大学院理学研究科地理学教室.
- 久武哲也（2003）旧資源科学研究所所蔵の外邦図と日本の大学・研究施設等所蔵の外邦図との系譜関係,外邦図研究ニューズレター,1,15-20頁.